



## きれいな川を次世代へ「マスの川」を守り継ぐ

(平成21年6月1日、富士宮市は「市の魚」にじますを制定。)

【あなたにスポットライト！第5回】  
議会だより編集委員会が市民の本音に迫るインタビュ企画。今回は、富士宮市非出資漁業協同組合(以下、漁協)の高野さんにスポットを当てました。事業の内容や活動に込めた熱い想いを伺います。

これまでの歩みについて教えてくださいませんか

高野氏 創立は昭和26年です。昭和38年に現在の「富士宮市非出資漁業



▲富士宮市非出資漁業協同組合 組合長 高野 孝雄 氏

協同組合」という名称になりました。当時から続く「ますつり大会」は、富士宮に春を告げる行事として親しまれ、回数は76回を数えます。

「ますつり大会」の熱気あふれる盛り上がりは今も鮮明に覚えています

高野氏 昔は前夜から火を焚いて場所取りをする人がいるほど、全国から1000人以上が集まる大イベントでした。時代は変わり、レジャーの多様化や釣り人の高齢化に伴い参加人数は変わりました。しかしながら、今でも募集が始まればすぐに定員が埋まるほど、非常に人気の高いイベントです。富士宮の春を告げる風物詩として、これからも多くの方



▲令和8年3月開催 ますつり大会



▲インタビューの様子

にこの喜びを届けていきたいですね。こどもたちが実際に魚と触れ合う「親子マス釣り教室」について教えてください

高野氏 釣りの普及のため、17回ほど開催しています。最近では、魚をスーパーの切り身でしか知らない子どもが多いのには驚かされます。親子マス釣り大会で魚が掛かった瞬間、こどもたちは驚きと喜びに目を輝かせ、夢中になって楽しんでますよ。川の環境を守る保全活動について教えてください

高野氏 神田川の清掃事業を市から委託され、年6回実施しています。空き缶を拾い、護岸の草を刈る。良い釣りを楽しんでもらうには、まず川が綺麗でなければなりません。最近ではカワウによる被害や、豪雨による放流魚の流出など苦勞も絶えませ

んが、「やっぱりこの釣りはいいな」と言ってもらえる環境を整えることが一番だと思っています。

今後の展望についてお聞かせください  
高野氏 組合員は現在20人ほどで、高齢化もあり存続は決して楽ではありません。しかし、漁協がなくなれば大会もできなくなってしまう。この文化を守り続けたいと考えています。

読者へメッセージをお願いします

高野氏 綺麗な川があつてこそ最高の釣りが楽しめます。この美しい神田川や潤井川の風景を次の世代へ。また、漁協の活動に協力してくれる若い仲間も募集しています。少しでも興味がある方は、ぜひ私たちの活動を覗きにきてください。



▲組合長高野氏と議会だより編集委員会